さ SA く KU ら RA

6月

Jun. 2020

発行／ボーイスカウト世田谷第５団広報部

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下の指導者・スカウトのメッセージ集

５月号「さくら」に続き、新型コロナによる緊急事態宣言でスカウト活動が休止となっておりましたため、今月もStay Home中のみなさまにお原稿をお寄せいただきました。４月号に続き、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

カブ隊

カブ隊長　土屋彰男

2020年度カブ隊　”今年も　歩くぞ！”

　ビーバーからの上進3人、新たな入隊1人を迎え、スカウトは4組22人、指導者は新たに3人加わって15人の体制で、「今年も歩くぞ」と意気込んでいました。

　ところが、新型コロナ禍に押し流されて、4月5月と活動中止。
　この間、指導者は、活動ができるようになったら直ちに始動できるようオンラインでリーダー会議を3回開催し、状況に合わせて活動計画を随時更新しました。
　スカウトの皆さんは、ゴールデンウィーク明けに届いたカブブック類に沿って、自宅でカブブックとチャレンジ章に一生懸命取り組んでいることと思います。保護者の方も、指導と支援、履修の認証サインとお疲れ様です。

　5月25日に、緊急事態宣が解除になりました。
　6月から、感染対策に十分気をつけて、活動開始です。
　早速7日に、今年度第1回の隊集会上進式と基本動作を予定しています。
　その先、年間最大の行事である夏季舎営が、夏休みの短縮により、年間計画の日程どおりには実施できない状況となり、その対応について近々決めなくてはいけないなど、課題は山積です。
　とはいえ、元気いっぱいのスカウトともに、楽しく充実したスカウト活動となるよう指導者一同がんばっていきたいと思います
　本年も、ご支援、ご協力をお願いします。

＊カブ隊のみんなに質問しました。
❶ステイホーム中で、楽しかった事
❷頑張った事
❸活動で楽しみにしている事
はそれぞれどんなことですか？

1組くま ■■■■

①ずっと家にいたのであまり楽しくなかった。
②学校の課題。

③デイキャンプで料理をしたい。

2組くま ■■■■
①ステイ・ホームの間の楽しかったこと
　段ボールで工作したこと
②ステイ・ホームの間がんばったこと
　勉強
③カブの活動が始まったら楽しみなこと
　夏季舎営

3組くま ■■■■

①自宅でポップコーンを食べながら映画を見たこと。
②塾の宿題、犬の散歩

③いろいろな活動がある夏季舎営

3組くま ■■■■
①楽しかったこと
家族と一緒に過ごせたこと。
お父さんと走れたこと。

②がんばったこと
毎日走れたこと

③楽しみなこと
仲間と一緒に活動すること

4組くま ■■■■

ステイホーム中で、楽しかった事は、バスケで兄を抜かしてシュートしたことです。
頑張った事は、宿題の、図工です。他にも、国語だったり、社会だったり色々あります。
活動で楽しみにしているのは炊事訓練です。なぜなら、前に作ったときおいしかったからです。他の活動も楽しみにしています。

ボーイ隊

5月17日　隊集会（ビデオ会議）

ボーイ隊隊長　保科潔

新型コロナウイルス感染症について想う

身近な話題

　経済活動が停滞している現在、家に居る事が増え自然と家族との会話も増えました。特に長男（大学３年　都内私大通学）と良く話をします、ご多分に漏れず現在は休校中でzoomを使って授業が週何回か有ります、2年生から好きなゼミに入れたのですが、ちょっと寂しそうです。以前から好きなスタジオジブリの作品を見ては主題歌、あらすじ等イロイロ語り合っています。中でも鈴木　敏夫プロデューサーに興味がありジブリ成功の要因と考えているようです。人物に対して興味関心が高い人は、コレだと思った人には、無邪気に飛び込んで教えを請うことができる、良いと思います。

免疫力を高めよう

　全世界で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっている。国と国の関係を断ち、更には個人と個人の関係も断つという全く新しいタイプの病気である。まだ治療薬は見つかったておらず、予防に役立つワクチンもない。しかし、よくある病気と軽視されがちな風邪にも、実は治療薬はない。症状を緩和する薬剤はあるものの、特効薬はいまだに存在しないのだ。それでも風邪は治る。治癒に導くのは、自身の体内にある、ウイルスや細菌を排除する免疫機能の働きだ。未解明の部分が多いとはいえ、新型コロナウイルス感染症は、予防法がはっきりしている。感染が起こりやすい状況もわかってきた。いま私たちに求められるのは、予防を徹底し、パニックに陥らずデマに惑わされず冷静に行動すること。そして感染しないため、かかっても重症化させないため自己の免疫機能を健全に保持することだ。そう遠くない将来、別の新型感染症はまた出現するだろう。それは人類のこれまでの歴史が物語っている。自身が持つ体の防御システムは、未知の感染症に対抗する備えとなるのだ。
以上

BS隊 オットセイ班 ■■■■

今回のボーイスカウトの活動はzoomを使ったテレワークの活動で、僕が班長になってはじめての活動でした。活動内容は、軽い自己紹介と普段の活動に必要な物(七つ道具)の説明、進級についての説明、これからの活動についてでした。このような形で班長になってしまいましたが、オットセイ班の班長として恥ずかしくないよう、皆を引っ張っていきたいです。よろしくお願いいたします。

BS隊 カモメ班 ■■■■

今年度初めての活動が行われた。本来なら4月9日の上進式から活動が開始される予定だった。しかしコロナの影響で初めての活動は、オンラインでのものだった。実際にやってみたらこの方法は活動の幅を広げるのには有効なのではないかと思った。今年カモメ班の班長となった。班長として、上進してきたスカウトたちが厳しくも楽しいボーイスカウト活動を送れるようにサポートしていこうと考えている。それは早くて6月14日の基本訓練からとなりそうだが、その時は班長としてだけでなく、１級スカウトとしても上進スカウトをフォローし、いいスタートダッシュができるようにと考えている。

BS隊 カモメ班 ■■■■

初めての活動がリモートで緊張しました。早く野外で活動ができるといいと思いました。ボーイ隊になり、他の人に迷惑をかけないようにがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

BS隊 カモメ班 ■■■

初めてのビデオ通話でのスカウトの活動だったのでちょっと緊張しましたが、みんなと行えて楽しかったです。

BS隊 カモメ班 ■■■■

今回の活動はボーイスカウトになって初めての活動で、少し緊張した。Zoomでの活動だったが真剣に取り組むことができた。七つ道具をしっかりと確認できた。コロナが流行している今は、沢山の知識を自宅で身につけたいと思う。コロナウィルスが収束して、外で活動できるのを楽しみにしている。

BS隊 トナカイ班 ■■■■

今回は、世田谷五団史上初のリモート集会、さらに僕が班長として参加する最初の活動でした。今はコロナウィルス感染拡大の中で、学校にも行けない、外にも出られないという中での活動だったので、リモートでもスカウトの皆に会うことができて嬉しかったです。それと同時に新しいスカウトがいるのを見て、班長になった実感がわきました。今まではずっと班長の指示を受けて動いていましたが、これからは自分が皆を動かしていかないといけないので正直不安です。しかし、これからの新体制を考えると、とても楽しみでもあります。今まではずっと活動の時、「班長はかっこいいなぁ」と憧れてきましたが、これからは自分が憧れられる存在になれるように、この活動休止中にスカウト技能や知識を向上させ、リーダーシップを発揮できるように万全の状態で活動を再開できるように努力したいと思います。

BS隊 トナカイ班 ■■■

今回は、初めてのボーイスカウト活動でした。最初は、緊張して声があまり出なかったけど、隊長達がとても優しく声をかけてくれたので、楽しく集会をすることができました。自己紹介の時、自分がうまくしゃべれてないと思ったのに、皆が拍手してくれていたので、うれしかったです。やはり、先輩方は、なれていて何も困る事なく自己紹介をしていて、さすがだなあと思いました。ぼくは、今度ある３０キロロードや色々な活動を頑張りたいです。その際、先輩方の足手まといにならないように、ルールなどをきちんと守って活動したいです。よろしくお願いします。

BS隊 トナカイ班 ■■■■

僕は、トナカイ班に入れて良かったし、カブスカウトから、ボーイスカウトに上がってみんなの足手まといにならないようにして、頑張ろうと思います。

BS隊 トナカイ班 ■■■■

今日は、はじめてのズームでの集会でしたが、なかなかうまくいってよかったです。所々わからないところがあったので、聞けてよかったです!次回の活動で早くみんなで集まって仲を深めたいと思いました。ベンチャースカウトの長井さんが言っていたように、できるものから進めていきたいと思います。早速得意なロープ結びをやってみました。ネジ結びと、巻結びにチャレンジしました。スカウトハンドブックを見てやってすぐに上手くなりました。
ところで自己紹介の時に紹介できなかった部分があったのでここでも少し紹介したいと思います。僕は最近「弱虫ペダル」と言う漫画にハマっていて、ロードバイクか、クロスバイクが欲しいのですが、どなたか、もう古くて乗れない身長150センチ位が乗れるロードバイクか、クロスバイクを譲っていただければうれしいです!ご検討よろしくお願いします。どなたか猫飼ってるの?と言っている方もいましたが、それは本当です。ちなみに名前は(あめ)です!
結構可愛いです！

ベンチャー隊

VS隊　■■ ■

私はコロナウイルスの影響で学校が休校になってしまいました。
最初は学校が無いことで生活リズムが崩れてしまい、だらだらしてしまいました。
しかし、少しすると慣れてきて、家族で山に登ったり、自転車でサイクリングしたりなど、アウトドアを楽しめました。
いつもは家族で出かける時間もそんなには無いのでとても充実した時間になりました。
勉強面ではなかなか学習を進めるのが難しいですが、その日の目標を決めて取り組んでいます。
また、学校が始まった時の部活に備えて体を動かしています。
最後まで気を抜かずに自粛期間を過ごしたいと思います。

VS隊　■■ ■■

世界中でコロナウイルスの感染が広がる今、これを読んでくれているスカウトは家で自粛生活を送っている筈だ。勿論僕も同じだ。勉強に励む者もいれば、趣味に時間を費やす者もいる。各々様々な時間の過ごし方をしてるいと思う。僕自身「スカウト」として感想文を書ける程大した生活は送っていないのでここでは僕が最近思っていることを書こうと思う。
世間がコロナについてのニュースで溢れ返る中、国民皆が政策であったり苦しい経済の現状や噂される9月入学について思うことがあるはずだ。その意見を身内と語ったりSNS上で発言することもあるだろう。同様にその意見を聞く、見る人もたくさんいる。その意見に対して賛否両論思う事はあるはずだ。ここで僕が疑問提起したいのは、あなたが何らかの形で触れたある1つの意見をあたかも自分のものにはしてませんか？
ということである。わかりやすく例えるなら、あなたがネット上で9月入学をするならこうした方がいいなどと言う書き込みを見つけたとして、後日あなたが誰か別の人と9月入学について話すにあたってネット上のその意見を無意識のうちに自分の意見としてはいないか？ということだ。確かにこれを言い出したらきりがないかもしれないが、メディアやSNSを通じて膨大な量の情報を得ることが出来る現代社会において「自分の意見」と言えるものは果たしてあるのか。流石にゼロでは無いだろうがそう多くはないのが現実だ。
（大前提としてわかっていて欲しいのが、ここで僕が言う「意見」というのはリンゴを食べて「ジューシーで美味しい」と言うような感想とは違う）　これはコロナに関するものだけではない。スポーツ選手の特徴について話す時も、あなたが発する意見はあなたが実際に目で見て感じて生まれたものではなく、スポーツ記事などで得たものであることが多いだろう。事実僕自身もその傾向がある。僕がはっきりと言っておきたいのは何もこの現実を否定し、ディスっている訳ではない。しかし、他人の意見を何も考えずに同意し、自分のものとして拡散するというのは誤情報の蔓延を引き起こしかねない。現にトイレットペーパーの買い占めはこのことが原因で起きてしまった。情報社会を生き抜くにはいかなる情報、意見に対しても一歩引いて冷静に判断し、そこから自分の考えを導いていくことが求められる。
この文章を読んで納得のいかない人もいるだろう。それもまた当たり前だ。全員が納得する意見ならとっくに一般論として世間を受け入れられていて、先の買い占めのようなものも起こらない。あくまで、社会の全容もろくに知らない未熟な高校生の一意見として読んでくれるだけでいい。
最後にこんなことを言うのもなんだが、僕は自分が思ったこととしてこの文を書いたつもりだが、もしかしたら無意識のうちに誰かの意見を引用してしまっているかもしれない。

ローバー隊

＊今回，ローバースカウトの日色君に書いてもらった文章の添削前と添削後を同時に掲載します。先月号のさくらで述べた「推敲」の実例として見比べてもらえればと思います。
＊最後に解説も付けておきます。

ローバー隊　日色駿介

浪人とローバースカウト（before）

①自身がそれまでに得た体験や知識、技術を基に、「社会や世界の課題」に挑戦します。また、他の人々に「奉仕」することで自らの成長に繋げ、自分自身の将来の目標や社会との関わりについて考え、行動していきます。(http://www.scout.or.jp/rs/ より引用)
日本ボーイスカウト連盟のホームページにはローバー隊がこう定義されています。この一年間、僕は浪人生活をおくっていましたが、ローバースカウトと浪人生活の共通点はなんだろうか？
②まず、もう一度受験勉強をするにあたって、現役時代の反省を生かして基礎的な事に対する徹底的な追及をしました。基礎というのは簡単とは同義でないということに気づけたのは大きかったと思います。そして、感覚が麻痺しただけかもしれませんが学ぶことの楽しさを知り、自ら考えることができるようになりました。また、講義での疑問点は通常講師の方々に質問に伺いますが、不在のときは予備校の友人と時間を決めてともに考えたり、どちらか一方が理解をしているときは教えあったりしました。これによって自身の理解を深めることができました。
③次に、大学では特に興味を持った学問である物理と数学に力をいれようと思っていますが、今はまだ明確な将来の目標がなく、じぶんがどういう人間なのかもいまいち把握できていないけれど、学び、常に自分を、そして将来を考えて過ごしてみようと思います。とりあえず本読みます。

↓添削

浪人とローバースカウト（after）

自身がそれまでに得た体験や知識、技術を基に、「社会や世界の課題」に挑戦します。また、他の人々に「奉仕」することで自らの成長に繋げ、自分自身の将来の目標や社会との関わりについて　　考え、行動していきます。
（http://www.scout.or.jp/rs/ より引用）
ボーイスカウト日本連盟のホームページでは，ローバースカウトをこのように説明しています。僕はこの1年間浪人生活をおくっていましたが，以上のように説明されるローバースカウト活動に対し浪人の経験がどのように役立ちうるのか，考えたことを今回のさくらの原稿にします。

1、自身がそれまでに得た体験や知識、技術を基に、「社会や世界の課題」に挑戦すること
受験勉強をやり直すにあたって，現役時代の反省を生かし，各教科の基礎事項を徹底的に復習しました。基礎というのは「土台」という意味であって，必ずしも「簡単」を意味するわけではない。それに気付けたのは大きかったです。基礎をしっかり追求したことで暗記による勉強を脱し，自ら考えることが出来るようになったのです。また，基礎に目を向けたことで学ぶことの楽しさを知ることも出来ました。感覚が麻痺しただけかもしれませんが。
基礎をしっかり確立し，それを基に自分の頭で考えるようになれてはじめて，幅広い応用問題を解くことが可能になります。浪人生活のこの経験は，「自身がそれまでに得た体験や知識、技術」という基礎を使って「社会や世界の課題」という応用問題を解くことと，ある種「相似形」を成しているのではないでしょうか。

2、他の人々に「奉仕」することで自らの成長に繋げること
講義の疑問点は，通常講師の方々に質問します。しかし彼らが不在のときは，予備校の友人と時間を決めてともに考えたり，互いに教えあったりしました。多くのばあい講師の方々の説明の方がスマートなのですが，不思議なことに友人と協力して泥臭く問題を解きほぐす方が，自身の理解がより深まることもしばしばありました。
このような教える／教えられるという互助の関係は，おそらく「奉仕」の根本にある精神ではないでしょうか？ 友人に問題を教えてあげていたつもりが，むしろ自分の頭の中の整理に役立っていた。それは，（本来の意味での）「情けは人の為ならず」であって，「他の人々に『奉仕』することで自らの成長に繋げ」ることの1つの実践だったと思うのです。

3、自分自身の将来の目標や社会との関わりについて考え、行動すること
1年間の浪人生活の末，無事に志望校に合格することが出来ました。しかし正直まだ，明確な「将来の目標」はありません。ただ大学では，浪人生活で特に興味を持った学問である物理と数学に力をいれようと思っています。
物理や数学は，現代社会を営むために必要な多くの基礎（それこそ土台）を提供してくれる学問であると思います。僕がこれらを学びたいと思ったのは個人的興味からですが，その学びが最終的に「社会との関わり」を獲得し，「自分自身の将来の目標」に繋がると思っています。エゴは自身の為ならず，です。

＊＊＊

現時点では，社会云々以前に自分がどういう人間なのかも把握できていません。ですからまずはせっかく苦労して入った大学で目の前の学問に全力で取り組み，ほどほどに（？）遊びたいと思っています。
抽象的で壮大なことをひとりでただ考えていても，何も始まりません。新型コロナウイルスのおかげで時間はやたらとありますので，とりあえず本を沢山読もうと思っています。

ローバー隊隊長　渡口要

添削解説

今回のさくら2020年6月号の原稿をローバースカウトの日色君に書いて貰う中で，文章添削・文章トレーニングについてLINE上でやり取りしました（ローバー隊では，原稿を書いてもらったときはいつもこのようなやり取りをしています）。その内容を，さくら用に少し修正して紹介します。

1、添削（推敲）するときの心構え

日色君の書いてきた文章を元に，「これをスッキリした論理的文章にするためには，どのような『てにをはの選択』や『語順の入れ替え』や『句読点の調整』が必要か」を考えて添削を行いました。

そうやって文章を直そうとすると，「論理的繋がりのためにはこの1文の追加がどうしても必要」というところが沢山出てきます。「暗記による勉強を脱し」などがその例です。

これは「内容を新たに付け加えている」とも言えますが，どちらかと言えば「AならばB，BならばC，したがってAならばC」という三段論法の「BならばC」が抜けていたところに，あるべき文章を補う作業です。別の言い方をすれば，数学の証明問題に出てくる式変形で，抜けていた重要な途中式を補うような感覚でもあります。つまり，添削に際して新しい文章を感情的・文学的に産み出したのではなく，そこに必然的に入るはずの文章を機械的・数学的に挿入しただけなのです。

そしてここからがポイントですが，この機械的・数学的な添削，つまり必然的な添削によって単に論理を整理・補間しただけのつもりであっても，実際には文全体から発せられるメッセージが内容的に深くなっているように感じられるはずです（日色君はLINE上でのやり取りの中で，その印象の変化を「濃いものになる」と表現しました）。

これを私はよく，「内容を頭の中で考えてからそれを紙に写しとるのではなく，見方を変えて『文章を書いて整形していく過程で，内容がワサワサと練り上がっていく』という感覚で書く」と表現して説明します。この感覚を掴む経験が大事です。大雑把に書く内容を決めると，それを「きっちりした文章」に整えていく過程で「自動的に」内容も形を持っていく。そうして「あぁ，俺はこういうことを考えていたんだ」と気づくような経験です。

これを「紙の上で考える」と言っても良いでしょう。

内容がラフに決まれば，それを表現する「正解の文章」が自然法則のようにこの世にあらかじめ存在する。そしてそれを論理（ロジック）などの執筆テクニックを道具として使って「発掘」するような感覚で書くこと。『考える人』で有名な彫刻家ロダンの言葉：「芸術作品はすでに大理石の塊の中にある。わたしはただ必要のないものを切り落とすだけなのです」にも似ています。

もちろん文章を書く行為は本当はそのようなものではありません。あくまで文章トレーニングの最初の段階として，そのような感覚で書く（彫り出す）ということです。とは言え，このような感覚で書くことは，どれだけ文章が上達しても，常に一定の有効性を持っていると思います。それこそロダンのように。

物理や数学を学んでいれば，この世界の自然の中に元々「宿っていた」数式なり理論なりを「発掘」する感覚が分かるのではないかと思います。例えばニュートン力学はニュートンが発明したのではありません。自然の中に元々宿っていた理論をニュートンが「発掘」したに過ぎないのです。

ということで，物理や数学の授業で「発掘の方法」としての様々な計算テクニックや定理を学ぶのと同じようにして，あるいは彫刻刀の使い方を学ぶのと同じようにして，あるべき「正解の文章」を「発掘」するテクニックを学ぶ必要があります。繰り返しますが，文章を書く行為の本質は「正解の発掘」ではありません。そのことをわきまえつつ，しかし「発掘の方法」を習得するという二重性を心構えとして持つことが大事です。そのためには，先月のさくら2020年5月号でも紹介した『理科系の作文技術』を（理系／文系問わず）お薦めします。

また，今回は論理（ロジック）を中心的に扱いましたが，それとは別に修辞（レトリック）のテクニックもあります。先月号のさくらで私が「文学的効果」と呼んだものです。

さらに，日色君の様々な人生経験を元ネタにして文章の内容（コンテンツ）を用意するのが，当然ながら文章を書く上で最も大切です。コンテンツをできるだけ楽に「ネタ出し」する方法も色々あります。例えば，普段からメモを取る癖をつける。それも「アウトライナー」と呼ばれるアプリを活用する，というのがあります（お笑い芸人のネタ帳に似ていますね）。それらの進んだテクニックについては，これも先月号のさくらで紹介した「千葉雅也 文章」でのGoogle検索をお薦めします。

しかし，初心者が文章トレーニングを始める時は，多くの場合「ロジック」から始めるのがいいと思います。下手にそれらしくしようとして「レトリック」に走ったり，素晴らしい内容にしようとして「コンテンツ」に頭を悩ませたりするのは，最初の文章トレーニングとしてはやめておいた方がいいでしょう。もちろん人によって最適なトレーニング法は違いますが，まずは「計算ドリル」と「彫刻刀の使い方」から始めた方が良い場合がほとんどであり，そして文章執筆の場合はそれこそが楽しいのですから。

2、具体的な添削意図

before

①自身がそれまでに得た体験や知識、技術を基に、「社会や世界の課題」に挑戦します。また、他の人々に「奉仕」することで自らの成長に繋げ、自分自身の将来の目標や社会との関わりについて考え、行動していきます。(http://www.scout.or.jp/rs/ より引用)

after

＊左右にスペースを入れて中央揃えした。

意図

引用文は，左右にスペースを空けたり文字を斜体にしたりすることで，「引用文」であることを明示する。

before

日本ボーイスカウト連盟のホームページにはローバー隊がこう定義されています。この一年間、僕は浪人生活をおくっていましたが、ローバースカウトと浪人生活の共通点はなんだろうか？

after

ボーイスカウト日本連盟のホームページでは，ローバースカウトをこのように説明しています。僕はこの1年間浪人生活をおくっていましたが，以上のように説明されるローバースカウト活動に対し浪人の経験がどのように役立ちうるのか，考えたことを今回のさくらの原稿にします。

意図

「日本ボーイスカウト連盟」は「ボーイスカウト日本連盟」が正式名称なので修正した。
日本連盟のホームページの文章は「定義」ではなく「説明」なので修正した。

「ローバースカウトと浪人生活の共通点はなんだろうか？」が唐突なので，説明を追加した。また語尾の「なんだろうか？」は，それまで語尾が丁寧語だったことに対してやはり唐突感があるので修正した。ただし，語尾は丁寧語なら丁寧語で統一するのが基本だが，一部あえて不統一にぶっきらぼうな語尾を使って効果を出す方法はある。beforeの文章の「なんだろうか？」でもそのような効果が出てはいるので，それを残しつつ唐突感を和らげる修正もありうる。

before

②まず、もう一度受験勉強をするにあたって、現役時代の反省を生かして基礎的な事に対する徹底的な追及をしました。基礎というのは簡単とは同義でないということに気づけたのは大きかったと思います。そして、感覚が麻痺しただけかもしれませんが学ぶことの楽しさを知り、自ら考えることができるようになりました。

after

受験勉強をやり直すにあたって，現役時代の反省を生かし，各教科の基礎事項を徹底的に復習しました。基礎というのは「土台」という意味であって，必ずしも「簡単」を意味するわけではない。それに気付けたのは大きかったです。基礎をしっかり追求したことで暗記による勉強を脱し，自ら考えることが出来るようになったのです。また，基礎に目を向けたことで学ぶことの楽しさを知ることも出来ました。感覚が麻痺しただけかもしれませんが。

基礎をしっかり確立し，それを基に自分の頭で考えるようになれてはじめて，幅広い応用問題を解くことが可能になります。浪人生活のこの経験は，「自身がそれまでに得た体験や知識、技術」という基礎を使って「社会や世界の課題」という応用問題を解くことと，ある種「相似形」を成しているのではないでしょうか。

意図

「〜に対する徹底的な追求をしました」は「追求」が直前に長い形容文を伴った名詞になっていて文章としてぎこちない。「〜を徹底的に追求しました」のように動詞にした方が良い。afterではさらに「復習」という具体的な動詞に変更した。

基礎の大事さを知ることと，学ぶことの楽しさを知ることと，自ら考えることができるようになったこと。これら3つの関係が明快でなかったので，「基礎をしっかり追求したことで暗記による勉強を脱し」という文章を補いつつ文章を分割して整理した。また，「感覚が麻痺しただけかもしれませんが」の挿入場所に違和感があったので，倒置法による文学的効果も狙って段落の最後に移動させた。

ここでの勉強についての考察が，この文章全体の問い＝浪人とローバーの関係は？ にどのようにして繋がるのかが明快でなかったので，冒頭の日本連盟によるローバースカウトの説明文を引用して繋がりを説明する段落を追加した。また「相似形」という言葉を使うことで，数学の勉強とローバースカウトとの繋がりを，内容（コンテンツ）や論理（ロジック）とは別に修辞（レトリック）——つまり文学的効果——によって表現した。

before

また、講義での疑問点は通常講師の方々に質問に伺いますが、不在のときは予備校の友人と時間を決めてともに考えたり、どちらか一方が理解をしているときは教えあったりしました。これによって自身の理解を深めることができました。

after

講義の疑問点は，通常講師の方々に質問します。しかし彼らが不在のときは，予備校の友人と時間を決めてともに考えたり，互いに教えあったりしました。多くのばあい講師の方々の説明の方がスマートなのですが，不思議なことに友人と協力して泥臭く問題を解きほぐす方が，自身の理解がより深まることもしばしばありました。

このような教える／教えられるという互助の関係は，おそらく「奉仕」の根本にある精神ではないでしょうか？ 友人に問題を教えてあげていたつもりが，むしろ自分の頭の中の整理に役立っていた。それは，（本来の意味での）「情けは人の為ならず」であって，「他の人々に『奉仕』することで自らの成長に繋げ」ることの1つの実践だったと思うのです。

意図

「また、講義での疑問点は（…）教えあったりしました」は1文が長く，文法的に間違いとは言えないもののごちゃごちゃしていたため，2文に分けた。

講師からの説明よりも友人との協力の方が自身の理解を深めることがある，というのは重要な論点であるはずなのに，beforeではそのことの意味が説明されていなかったので，afterではこの後に新たに段落を追加した。また，それに繋がるように「不思議なこと」前後の文章を追加した。

ここでの友人との教え合いのエピソードが，この文章全体の問い＝浪人とローバーの関係は？ にどのようにして繋がるのかが明快でなかったので，冒頭の日本連盟によるローバースカウトの説明文を引用して繋がりを説明する段落を追加した。また，そのような繋がりを表現するために，「情けは人の為ならず」ということわざを文章上の「糊（のり）」として使った。

before

③次に、大学では特に興味を持った学問である物理と数学に力をいれようと思っていますが、今はまだ明確な将来の目標がなく、

after

1年間の浪人生活の末，無事に志望校に合格することが出来ました。しかし正直まだ，明確な「将来の目標」はありません。ただ大学では，浪人生活で特に興味を持った学問である物理と数学に力をいれようと思って

います。
　物理や数学は，現代社会を営むために必要な多くの基礎（それこそ土台）を提供してくれる学問であると思います。僕がこれらを学びたいと思ったのは個人的興味からですが，その学びが最終的に「社会との関わり」を獲得し，「自分自身の将来の目標」に繋がると思っています。エゴは自身の為ならず，です。

意図

　浪人生活の末どうなったのかを明快に書くことで，文章が終わりに近づいていることを予感させた。
　「物理と数学」の登場が唐突なので，afterではこの後に新たに段落を追加した。また，それに繋がるように「合格」→「将来の目標」→「物理と数学」という順に3文を並べた。
　ここでの物理と数学の登場が，この文章全体の問い=浪人とローバーの関係は？ にどのようにして繋がるのかが明快でなかったので，冒頭の日本連盟によるローバースカウトの説明文を引用して繋がりを説明する段落を追加した。また，「基礎（それこそ土台）」および「エゴは自身の為ならず」という表現を使うことで，前の「勉強についての考察」と「友人との教え合いのエピソード」との繋がりを演出した。これによって，いよいよ文章が全体のまとめに向かっていることを示した。

before

　じぶんがどういう人間なのかもいまいち把握できていないけれど、学び、常に自分を、そして将来を考えて過ごしてみようと思います。とりあえず本読みます。

after

　現時点では，社会云々以前に自分がどういう人間なのかも把握できていません。ですからまずはせっかく苦労して入った大学で目の前の学問に全力で取り組み，ほどほどに（？）遊びたいと思っています。
　抽象的で壮大なことをひとりでただ考えていても，何も始まりません。新型コロナウイルスのおかげで時間はやたらとありますので，とりあえず本を沢山読もうと思っています。

意図

　「じぶんがどういう人間なのかもいまいち把握できていない」ことがこの文章全体にとってどのように位置付けられるのかが明快でなかったので，「社会云々以前に」を追加するなどして修正した。
　真面目な論調なので，「ほどほどに（？）遊びたい」を入れて「隙・余地」を残した。
　「基礎（土台）」・「他者との協力」・「物理と数学と社会という具体性」というこの文章の3つのメッセージから，最後の「本を読む」というオチへと繋げるために，「抽象的で壮大なことをひとりでただ考えていても，何も始まりません」を挿入した。つまり，壮大なことを考えるためには基礎（土台）が必要で，ひとりでただ考えるよりも「本という他者」との出会いが必要で，抽象性と具体性との行き来の手段として物理と数学（一般に学問）が必要で，という構造にした。
　ここまで一切新型コロナウイルスに触れていなかったので，「新型コロナウイルスのおかげで時間はやたらとありますので」を挿入した。これには最後の「とりあえず本読みます」の唐突感を低減する役目も持たせた。

会議報告

団会議　5月30日（土）20:00～　Google Meet によるWeb会議
各隊報告
BVS隊、CS隊ともに4，5月は活動はお休み
BVS隊：6月は原則、屋外での活動を予定
CS隊：6 /7　隊集会、上進式、基本動作
　　6 /21　ハイク自然観察
BS隊：5 /17　オンライン隊集会
　　6 /14　隊集会「基本訓練」多摩川河川敷
　　6 /26(金) 隊集会、GBM、勉強会　18:00～22:00
　　6 /28(日) 隊集会「ウッドクラフト」
VS隊：　5月　コロナによる自粛生活についての作文を書く
育成会より：総会資料（5/11に電子配布）→　投票結果を送付
　　100%（育成会役員・団委員候補者については98.5%）の承認
地区協議会
・「ボーイスカウト講習会」（6 / 7）など指導者養成事業は6月末まで全て中止
・周年記念行事：9 /27に兵庫島公園で開催予定されていた記念行事は今年度は中止
　　12/5の周年記念レセプションは今のところ開催予定
夏期舎営・野営について
活動費集金について
　4月以降の自粛のため、実際の活動が出来ていないが・・・

会議予定

団会議　6月27日（土）団会議　20:00～　尾山台地区会館第1会議室

育成会より

新型コロナウイルスの影響による電子書面での育成会総会にご協力いただきましてありがとうございました。総会員78において、71の投票をいただき、議事が承認されましたことをご報告申し上げます。

以下投票結果、googleフォームの回答集計をまとめましたのでご確認ください。

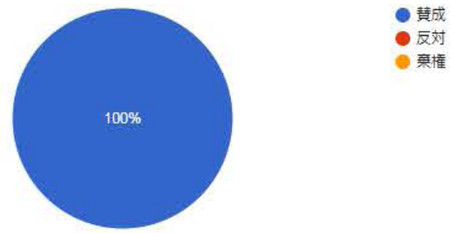
令和2年ボーイスカウト世田谷第5団育成会総会　投票結果

投票分母 78　内訳 68-11+21(兄弟による重複を除いたスカウト家族数と保護者以外の成人関係者)

令和 2 年 5 月 30 日

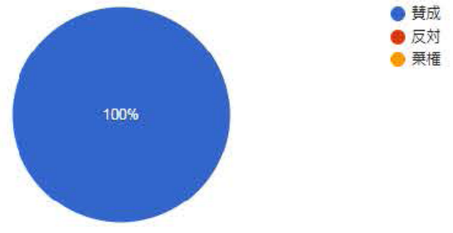
議案1．令和元年度活動報告書

71 件の回答



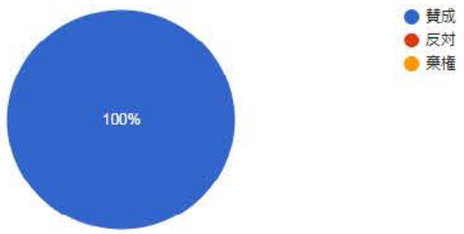
議案2．令和元年度収支計算書

71 件の回答



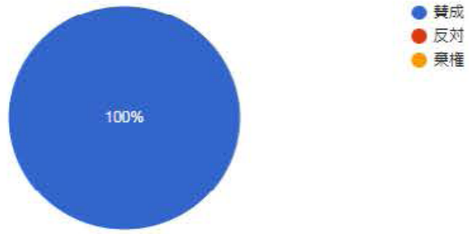
議案3．令和2年度活動計画書

71 件の回答



議案4．令和2年度収支予算書

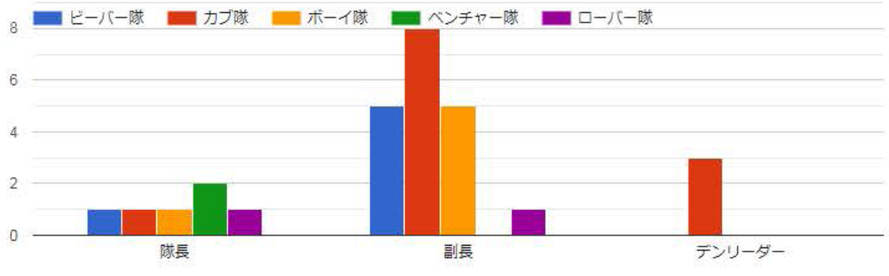
71 件の回答



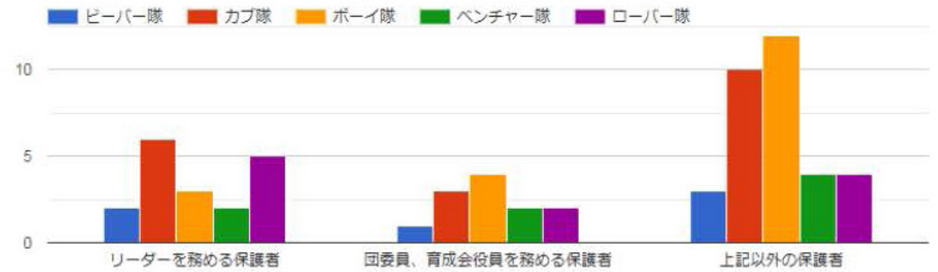
議案5．育成会役員・団委員候補者

66 件の回答

＜投票隊リーダーの所属＞



＜投票保護者の所属＞



＜議事へのご意見＞

4 件の回答

特になし
特にありません

＜議事以外へのご質問、ご意見＞

6 件の回答

特になし
特にありません
今年度はオリンピックでの活躍が期待できると思って楽しみにしていました。この状況下で活動自体が難しくなるかと思いますが、無理せず活動を続けられることを願います。
ボーイスカウト世田谷第5団の旗の下にリーダー・スカウト・保護者が知恵と勇気と力を出して横山新団委員長と新しい歴史を紡ぎたいです。

★新年度副育成会長より

副会長　中嶋幸子

今年度、副会長を務めさせていただきます、中嶋です。
今年度は年初から異例なことばかりで、手探りで活動しております。私自身は2期目ではございますが、まだまだ不慣れな部分も多く、皆さまのお力を借りながら進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

副会長　　菅家純子

今年度、副育成会長を務めさせていただきます菅家です。息子はカブ隊に所属しております。

今年は新型ウィルス騒動で誰もが不安の中、克己心を試されるような毎日が続いておりますが、こんな時に際立つ人間力をスカウト活動を通じて磨いて欲しいと改めて感じました。微力ですが、活動のお役に立てるよう務めて参りたいと思います。

★次回の会議日程は未定です。